

2025年(令和7年)9月24日(水曜日)

第3021号

(2)

研修で現場力を磨く

学生文化創造 文化庁審議官の講演会も実施

NPO法人学生文化創造は、学生支援の専門性向上を目指す「学生支援に関する基礎研修講座」を8月28日(木)と29日(金)の2日間にわたって、対面形式で開催した。

国立大学職員6人、私立大学・短期大学職員等31人、合計37人の大学関係者が受講し、高等教育における学生支援のあり方について深く学んだ。

研修最終日の8月30日(土)には「スチューデントコンサルタント認定試験」が実施され、34人が受験した。

研修に先立ち、28日には文化庁審議官の松坂浩史氏による無料公開講演会「高等教育の現状と課題について」『知の総和』『答申』が開催された。

基礎研修講座では、多岐にわたる重要なテーマが取り上げられた。

国立教育政策研究所高

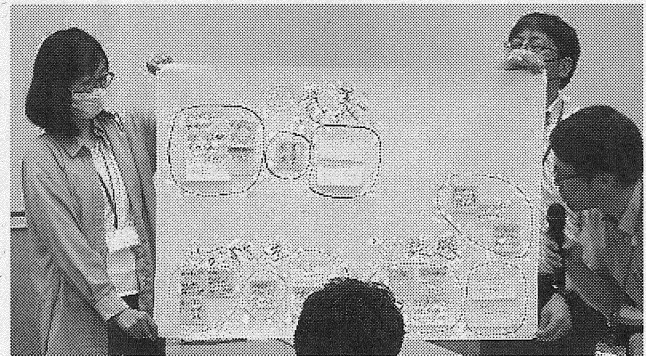
バイジングー情報収集・吟味・決定力を育む「アプローチャー」が紹介された。大学教育へのアクセシビリティ、主体的・自律的な学習者、各大学のシラバスにおける主体性・自律性、学生の多様性と背反性、学生の自律に向けた具体的事例、アカデミック・アドバイジングの概念等について説明が行われ、学生が自ら情報を収集し、吟味し、決定する力を育む重要性が強調された。

続いて、横浜市立大学の出光直樹教授は「ユニバーサル時代の我が国の大学進学―正解から納得解へ」と題し、日本の大学入試の実像、世界の高大接続・大学進学、中途半端な日本

本の高大接続改革、当事者の視点で大学進学を考える等について解説し、受講生は事前に与えられた課題に基づいたグループワークで議論を深めた。また、法政大学の児

美川孝一郎教授は「インターンシップの課題―困難と対応策―」について講演した。最初に事前課題1のグループワークが行われ、各チームからその成果の発表が行われた。引き続き、大学がインターンシップに取り組む意義、インターンシップの定義等について説明が行われた。

休憩をはさみ事前課題2のグループワークが行われ、各チームからその成果の発表が行われた。大学教育の本来の役割、社会正義のキャリア支援について説明が行われた。これらのグループワークの成果についても情報共有が図られた。



グループ発表の様子

懇談会が催され、名刺交換、情報交換の場として、次回の研修会は「学生支援に関する研修会(中途退学予防、奨学金制度)」として、10月24日(金)、25日(土)の2日間、対面・オンライン

方式で開催される予定である。申込締切は10月10日(金)。詳細については、学生文化創造(電話03-6890-1173)まで。

